

妙智會

1月28日 本部供養会

本殿大講堂（ライブ配信）

宮本法嗣先生ご指導

Vol. 123

2024. 2. 4

1/2

本日の供養会の前に、東京湾を震源とする地震がありました。私は1月の地震に対して、他人事ではないと申し上げていました。多事多難な年だということを受け止めて、会主さまの教えをしっかりと行ってください。

ただ受け止めてるだけでは「行」とは言いません。「行」というのは「行う」ということです。このことを今日、しっかりと受け止めて、心新たに修行していただきたいと強く願います。

今年は多事多難な年で、大変なことが起きて足をすくわれるんだよということを申し上げていました。それは目に見えないものが大きいということです。先のことは誰もわかりません。なぜならば「見えない」からです。過去は記憶の中にあります。

よく会主さまは「先は見えないから、今日までの見えていたことを大事にしてください。そうすれば先の不安はなくなるのです」とおっしゃいました。

先祖は過去ですから、見えているのです。私たちは、つい自分の欲で、過去のことよりも先のことを心配します。そして、思った通りにならないのが未来です。先のことはわからないからこそ、わかっていた過去を大事にするのです。それが妙智會の先祖供養です。私たちが先祖を供養することによって、会主さまが「正しい先祖供養、正しいお導きをすれば、先のことは心配ない」とおっしゃったのはここです。先にちゃんと順序がつくとおっしゃったのですから、それを信じて行えばいいのです。

また、私たちは過去の失敗を見ていたのに、同じことを繰り返してしまう。これは過去のことを大切に思わないからです。

私たちは良いことよりも悪いことした方が多いのですから、よく思い出し、振り返ってください。

妙智會では「懺悔」という、尊い修行があります。懺悔の修行の真骨頂が、お導きです。お導きをしながら、過去をしっかり受け止めて綺麗にしていけば、何の心配ありません。会主さまが、そう約束してくださっていました。

ですが、そのご指導頂きながらも、なかなかそのような気持ちになりにくいのは、人間の欲であり、業です。諦めずに今日までの見てきたことを思い出して内省をし、懺悔をしてください。

そして今、寒修行の途中ですね。寒修行をしてるからといって胸を張らない方が良いですよ。よく寒修行が終わると、本部に来ない人がいます。寒修行のその期間だけ立派な人になっても意味がありません。

寒修行は自分が誓願したものです。今年 1 年間いいことあるようにと誓願している人がもしいるならば、厳しいですけれども、それは妙智會の寒修行ではないと思います。

1 日 1 日を繰り返すことが修行だと大導師さまがよくおっしゃってました。寒修行は身を正す、自分をちゃんとするためにあるのです。私たちは普段やらないから、その期間だけでも少しきっかけを作りなさいということです。功德をもらいたいがあるものではありません。自分の修行です、自分を見るためにあるんであって、これは会主さまが口酸っぱくしておっしゃったことなんです。

寒修行中でもあり、もうすぐ新しい年を迎えるということもあり、大事な大事な会主さまのご指導を、お伝えいたしました。どうぞもう一度振り返って少しでも改めて、しっかりやっていけば、多事多難な、今年も心配ありません。